

日本学術振興会バンコク研究連絡センター

活動報告(2010 年 7 月～9 月)



■ 新センター長着任 — 竹内 渉 東京大学 准教授 ■

平成 22 年 7 月 1 日付けにて、新センター長として竹内渉・東京大学准教授が着任した。自身の専門はリモート・センシングで、GISTDA を共同研究機関として今後 2 年間の勤務を行う。

なお、同日より、現地スタッフとして Ms. Aunchalee Suksurangkakul が勤務を開始し、追って 7 月 26 日付けにて、副センター長に京都大学事務職員の田辺寛明が着任した。これにより、バンコク研究連絡センターの新体制が整った。以下、センター長挨拶。

2010 年 7 月 1 日にバンコク研究連絡センター長に着任した、竹内渉です。これまでは、派遣元の東京大学生産技術研究所で、アジア地域を中心に環境・災害リモートセンシングの研究に従事してきました。タイとのご縁は 2007 年に国際協力機構(JICA)ならびに東京大学からアジア工科大学院(AIT)に派遣していただいて以来となります。

私ども日本学術振興会(JSPS)がバンコクにオフィスを構えてから本年 2010 年に 20 年の節目を迎えました。こちらでの主な活動内容は、タイ国家学術会議(NRCT)や昨年発足した同窓会組織と連携し、ワークショップの開催、外国人特別研究員派遣、論文博士取得などを通じた支援により、学術交流を促進することにあります。タイの隣国に目を向けますと、東南アジア・南アジア諸国はめまぐるしい経済発展を続けています。日タイの重要性はもちろんのこと、近隣諸国との学術を通じた人的交流とネットワーク構築の重要性は疑う余地がなく、我が国の科学技術外交を側面から支援する役割に身の引き締まる思いです。各国文京関連のご支援を頂きながら、科学技術関連の連絡体制を整え、バンコクの地理的優位性を生かした機動力を持った活動を展開して聞きたい所存です。



竹内センター長



田辺副センター長

GISTDA: Geo-Informatics and Space Technology Development Agency タイ地理情報宇宙開発機構

■ タイ科学技術週間 準備会合 ■

平成 22 年 7 月 7 日 (水)、MOST にて 8 月 7 日から 22 日まで開催のタイ科学技術週間 (Science Week 2010) に関する準備会合が行われ、当オフィスよりセンター長及び現地職員が出席した。

科学技術を身近に感じることで一層の発展を目指すという、科学技術週間の開催趣旨の説明のほか、関係各期間のコンタクトパーソンの紹介等がおこなわれた。

続く 7 月 21 日 (水)、科学技術週間の会場である BITEC にて展示に関する説明会が行われ、当オフィスよりセンター長及び現地職員が出席した。

ブース展示に関する具合的な説明が行われたほか、参加予定機関数等が発表された。(以下に詳細あり)

MOST: Ministry of Science and Technology 科学技術省

BITEC: Bangkok International Trade and Exhibition Centre バンコク国際貿易展示場

■ タイ科学技術エキスポに関する打合せ ■

平成 22 年 7 月 9 日 (金)、NRCT にて、8 月 26 日から 30 日まで開催のタイ科学技術エキスポ (Research Expo 2010) に関する事前打合せが行われ、当センターよりセンター長及び現地職員が出席した。NRCT からは事務局長である Dr. Soottiporn Chittmittrapap 教授、国際部長 Ms. Choosri Keedumrongkool のほか上級職員が出席し、当オフィスが予定しているブース展示にかかる詳細説明及び、8 月 29 日に共同開催を予定している JSPS と NRCT の共催セミナーである JSPS - NRCT Seminar at Research Expo 2010 について講演者の人選を進めるよう調整が行われた。

NRCT: National Research Commission of Thailand タイ学術研究会議

■ タイ科学技術週間への出展 ■

平成 22 年 8 月 7 日 (土) より BITEC で開催されたタイ科学技術週間 (MOST、NSM 主催) に出展した。例年の出展であるが、今年は特に、JSPS の業務内容をタイ語で説明するポスターを用い、タイ人の参加者にとっても親しみやすい展示を心がけた。



現地職員、センター長、副センター長

用意しておいたパンフレットやブローシャー、過去に開催したシンポジウム報告書等はいずれも配布され、小中学生を中心とした参加者の中で、JSPSの知名度が将来的に拡大していくことが期待される。

タイ国内からはMOSTをはじめとした省庁や、タイ Assumption 大学等の大学機関、民間企業が出展。外国からは、在タイ国ドイツ大使館のほか、日本からJSPSのほかJAXA、NEDO、JIRCAS、NICTといった機関、東芝

やトヨタ紡織社といった民間企業が出展した。

7月22日（日）までの開催期間中の総参加者数は120万人と発表されている。

なお、平成22年8月9日（月）には、シリトーーン王女（Her Royal Highness Maha Chakri Sirindhorn）ご臨席のもとでグランドオープニングのセレモニーが、参加機関をはじめとする関係機関からの代表者が出席のうえ、厳粛なムードの下で開催された。当オフィスからはセンター長が出席した。

開催場所：BITEC

主 催：MOST、NSM

日 時：2001年8月7日～2001年8月22日

グランドオープニング 2010年8月9日 15時

参加機関：科学技術省、交通省、農業・協同組合省ほか全10省庁

- ・ Nanmee Co, TK Park, PTT Exploration and Product Public Co, Toshiba Co, Toyota Boshoku Co ほか全13企業
- ・ Assumption University, Sukhothai Thammathirat Open University, Rajamangkala University of Technology Thanyaburi ほか20大学
- ・ JAXA、NEDO、JIRCAS、NICT 5海外機関
- ・ ドイツ大使館

BITEC : Bangkok International Trade and Exhibition Centre バンコク国際貿易展示場

MOST : Ministry of Science and Technology 科学技術省

NSM : National Science Museum 国立科学博物館

JAXA : Japan Aerospace Exploration Agency 宇宙航空研究開発機構

NEDO : New Energy and Industrial Technology Development Organization 新エネルギー・産業技術総合開発機構

JIRCAS : Japan International Research Center for Agricultural Sciences 国際農林水産業研究センター

NICT : National Institute of Information and Communications Technology 情報通信研究機構

■ タイ科学技術エキスポ出展 ■

平成 22 年 8 月 26 日（木）より Central World の Bangkok Convention Center で開催されたタイ科学技術エキスポ（Research Expo 2010）に出展した。

また、この期間中、JSPS Bangkok Office ではブース展示のほかに NRCT と共催で「JSPS-NRCT Seminar」を実施したほか、タイ国 JSPS 同窓会との共催により「JAFT Seminar on Research Expo 2010」を実施。（以下に詳細あり）

なお、NRCT は首相直属の機関であり、8 月 26 日に開催されたオープニングセレモニーにはアピシット首相も出席してオープニングスピーチを行い、その中で、外国人研究者による技術移転の促進と、各県での大学あるいはそれに準じた教育研究施設の開設という、科学技術水準を高める政策の強化を表明した。

開催場所：Bangkok Convention Center, Centara at Central World

主 催：NRCT

日 時：2001 年 8 月 26 日～2001 年 8 月 30 日

オープニングセレモニー 2010 年 8 月 26 日 9:00

事務局長挨拶

2010 年 TWAS Prize for Young Scientist in Thailand 受賞者表彰式

Dr. Visith Thongboonkerd, Mahidol University

アピシット首相スピーチ「タイ社会および経済に向けた研究と創造」

グランドオープニングセレモニー 同日 15:00

シリトーン王女ご臨席

参 加：約 200 ブース（大学、公官庁、公的研究機関、研究系民間企業等）

NRCT : National Research Council of Thailand タイ学術研究会議

JAFT : The JSPS Alumni Forum in Thailand タイ国 JSPS 同窓会

TWAS : The Academy of Sciences for the Developing World 第三世界科学アカデミー

■ JSPS タイ国同窓会セミナーの開催 ■

平成 22 年年 8 月 28 日（土）午前 9 時より、JSPS タイ国同窓会（JAFT）がセミナーを開催した。

8 月 26 日（木）から 30 日（月）まで開催の NRCT 主催タイ科学技術エキスポの一環として開催され、「Seeking New Knowledge in social Sciences and Humanities in Resolving the Social Crisis」と題し、JAFT から 2 名の研究者と、在タイ国日本国大使館から 1 名の講師を招いて、講演会を実施した。

同窓会会長である Dr. Busaba Yongsmith 教授の冒頭挨拶の後、NRCT 事務次長



櫻井一等書記官、Dr. Sukanya、Dr. Atthachak

Mrs. Kanchana Pankhoynang よりウェルカムスピーチが行われ、その後、いずれも今日のタイにおける社会問題に社会科学的なアプローチを図ろうとする以下 3 つの演が行われた。

講演後は 3 講師それぞれに多くの質問が投げかけられ、今日のタイにおける社会的な側面への関心の高さをうかがい知ることができた。

「Japan's Experience ~Rapid Economic Growth and People's Life~」

日本国大使館一等書記官 櫻井宏明氏

戦前戦後の日本の成長の軌跡をたどり、現代タイ社会への教訓を求めた。

「Political Development in North-Eastern Thailand」

Dr. Sukanya Aimimtham, Associate Professor, Faculty of Humanities and social Sciences, Khon Kaen University

タイ東部の「イサーン」地域の人々について、政治的行政的にタイ社会全体で対等に考えていこうという議論を行った。

「Seeking New Knowledge in social Sciences and Humanities in resolving the Social Crisis」

Dr. Atthachak Satayanurak, Associate Professor, Faculty of Humanities, Chiangmai University

今日、社会的に危機的状況を抱えているタイ社会に対し、日本をはじめとする諸外国の経験を活かし、社会科学的なアプローチによりタイ社会の再形成を考えた。

なお、Sukanya 博士は駒澤大学で、Atthachak 博士は名古屋大学で、ともに 2004 年に博士号を取得されている。その間、論文博士号取得希望者に対する支援事行による支援を受けておられ、JSPS 事業の経験者がタイ国に戻って活躍するとともに、同窓会事業に積極的に参加している様子がわかり、当オフィスとしては、有意義な時間を過ごすことができた。



Dr. Atthachak, Ms. Choosri

■ JSPS - NRCT Seminar at Research Expo 2010 の開催 ■

平成 22 年 8 月 29 日（日）午後 1 時半より、Bangkok Convention Center にて、NRCT 主催タイ科学技術エキスポ（Research Expo 2010）の一環として JSPS - NRCT Seminar 「Advanced Science and Education in Japan」を開催した。

まず、JSPS バンコク研究連絡センターより、竹内センター長の開会挨拶が述べられ、その後、NRCT より Ms. Choosri 国際部長のウェルカムスピーチが行われた。その後、約 100 名の来場者で埋め尽くされた会場にて、いずれも GCOE プログラムのプログラムリーダーである、東京大学 藤野陽三 教授、長崎大学 平山健二 教授、筑波大学 山海嘉之 教授に招待講演をいただいた。



Ms. Pannee(NRCT) Mr. Sawaeng(NRCT) Dr. Chotika 3 教授
Dr. Nopadon Dr. Manukid Ms. Choosri(NRCT) センター長



右から藤野教授、Dr. Nopadon

ながら説明された。バンコクでは公共交通機関の延伸を控えており、それによる環境改善の効果について質問が寄せられる等、身近なテーマへの関心の高さがうかがわれた。

熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略（長崎大学 平山教授）では、感染症撲滅に向けて、基礎研究とフィールド調査の重要性が説明されたほか、蚊を媒介する病気であるマラリアやデング熱の脅威に関連して、人間の生活動のための開発によって蚊の生存数が爆発的に増加していること、自然環境の変化に伴う蚊の活動範囲の広がりなどが、多くの図を用いながら説明された。タイ国では現在もデング熱患者が増加している等、伝染病が重要な社会的課題

となっており、観客は真剣な面持ちで聴講したほか、ワクチン接種の重要性など改めて確認した様子であった。



平山教授



山海教授

サイバニクス：人・機械・情報系の融合複合（筑波大学 山海教授）では、まずはサイバネティクス、メカトロニクス、情報技術、IT、ロボット工学、脳・神経科学、生理学、行動科学、心理学、法学、倫理学、感性学など医科学、自然科学、社会科学に広範にまたがる科学領域であるサイバニクスについて説明が行われた。ついで、実際に支援ロボットを用いることで、これまで動かすこ

とのできなかった四肢を用いることが可能になっている映像が多数紹介され、会場は驚きに包まれたほか、日本の患者が羨ましいといったような感想が聞かれた。

各講演とも、各分野のタイ人研究者によるタイ語での簡単な説明が行われ、理解の促進が図られました。質疑応答では活発な質問が交わされた。

今回の講演会は、タイ国内で関心が高く、世界的にも高度な研究業績を挙げている、都市空間再生持続学、熱帯感染症、ロボット技術という3つの研究・教育事業の紹介を目的としたものであるが、結果的に、一度に3名の世界トップクラスの研究者を招いての連続講演会となり、非常に有意義な3時間となった。

(場所)

Bangkok Convention Center, Centara at Central World

(日程)

13:30

開会挨拶 JSPS バンコク研究連絡センター センター長 竹内 渉
ウェルカムスピーチ NRCT 国際部長 Ms.Choosri Keedumrongkool

13:40-14:30

Sustainable urban regeneration

東京大学 GCOE: 都市空間の持続再生学の展開

藤野 陽三 教授

タイ研究者：キングモンクット工科大学ラカバン校建築学部

Dr. Nopadon Sahacahisaeree 准教授

14:40-15:30

Integrated global strategy for the control of tropical and emerging infections diseases

長崎大学 GCOE: 熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略

平山 謙二 教授

タイ研究者：タイ公衆衛生省国立健康研究所

Dr. Chotika Boon-long

15:40-16:30

Cybernetics: fusion of human, machine and information systems

筑波大学 GCOE: サイバニクス：人・機械・情報系の融合複合

山海 嘉之 教授

タイ研究者：アジア工科大学工学テクノロジー学部

Dr. Manukid Parnichkun 准教授

■ ユネスコ Regional Network ワークショップの開催 ■

平成 22 年 9 月 3 日（金）、バンコクのインペリアルクイーンズパークホテルにて、微生物学及びバイオテクノロジーに関するユネスコ広域ネットワークによる、生命科学分野での人材育成を目的としたプログラムの最終ワークショップが開催され、当オフィスより副センター長及び現地職員が視察した。

これは、ユネスコの提唱により発展途上国に対して科学教育および研究の場を提供することを目的に、1973 年「International Post-Graduate University Course in Microbiology」と題して開始された国際トレーニングコースで、開始当時より大阪大学が中心となって運営をしている。今回のワークショップも主催は大阪大学となっている。これまでに 19 の国々から 400 人を超える参加者を出しているプログラムだが、2007 年でいったん終了を迎え、新たにコースを立ち上げるためのレビューミーティングを 2009 年より各地で行い、——バンコク（09/10/09）、ハノイ（09/10/30）、マニラ（10/02/06）、ジョグジャカルタ（10/05/24）——今回はその総括として開催された。



大阪大学から鷺田清一総長のほか、組織委員会会長である原島教授や仁平教授が出席し、文部科学省から藤島国際統括官、ユネスコ・ジャカルタオフィスから Hubert Gijzen 所長が参加した。

このほか、微生物学及びバイオテクノロジーに関するユネスコ広域ネットワークのボードメンバーがタイ・日本を含む 11 カ国から参加し、各国における特にバイオテクノロジー分野における人材育成の状況が報告された。

■ 大阪大学 - 大阪外国語大学バンコク合同同窓会 開催 ■

平成 22 年 9 月 4 日（土）、バンコクのグランド・ミレニアム・ホテルにて大阪大学 - 大阪外国語大学バンコク合同同窓会が開催された。バンコクにいる大阪大学同窓生と大阪外国語大学同窓生が一堂に会するもので、大阪大学の関係者も含めて、タイ人約 100 人、日本人約 50 人が



鷺田総長

詰めかけた。

冒頭、Dr. Ittichai Arunsrisangchai 大阪大学タイ同窓会会長及び 政岡 勲 咲耶会バンコク支部長から祝辞が述べられた後、白川 功 名誉教授による乾杯の音頭がかけられた。開宴後は鷺田清一 大阪大学総長もスピーチを行い、会場を埋めた大勢のタイ人や日本人からは盛んに笑いが起こり、世代を越えて熱心な交流が図られた。

■ GISATDA（タイ地理情報宇宙開発機構）訪問 ■

平成 22 年年 9 月 6 日（月）、竹内渉センター長の共同研究相手機関である GISTDA の Latkrabang にある Earth Observation Center を訪問した。

ジオインフォマティクスと宇宙科学技術について、より効率的な観測に向けた技術への移行に関する意見交換を行ったほか、施設の案内をしていただいた。



意見交換の席には、Chaiyan MAOLANONT 所長のほか、若手の技術者が多数参加し、熱心に議論が交わされた。

THEOS 衛星の完全な運用が昨年に開始され、これにより地上でのデータの観測及び提供から、経済的・社会的・安全管理目的での映像処理や運用が可能となったとのこと。

GISTDA はバンコク東部のラックラバン(Ladkrabang)にて、地上受信機の運用を行っており、収集されたデータはタイの天気予報にも利用されている。

■ 小町 在タイ国日本国大使特別講演 ■

平成 22 年 9 月 7 日（火）、タマサート大学東アジア研究所にて、在タイ日本国大使の小町大



中央が小町大使

使が Thai-Japanese Relations : Its Future Beyond six Hundred Years と題した特別講演を行い、当オフィスからはセンター長、副センター長、現地職員が聴講した。

会場のタマサート大学東アジア研究所は日本の支援により建設された建物で、大使として着任する遙か以前のことながら、担当者として携わった際のエピソードを披露して、講演を始められた。

タイと日本は永きに渡って良好な外交関係を続けており、その歴史は 600 年昔にまで遡ることができるが、この友好関係が自然に出来上がったものではなく、両国のたゆまぬ努力によって培われたものであることを、ものや人、技術や情報の交流に関する豊富な例を挙げながら説明し、今後のタイ日関係の更なる深化と発展へのヒントを示唆された。

■ 日本学術振興会タイ国同窓会 第一回理事会 ■

平成 22 年 9 月 9 日（木）、今年 2 月に設立された JSPS タイ国同窓会（JAFT）の第一回理事会が開催された。理事会ではまず、センター長をはじめとするバンコクセンターの新メンバーの紹介が行われ、理事会メンバー等の自己紹介がおこなわれた。

主な議事内容は、外国人研究者再招へい事業（BRIDGE Fellowship）実施に関する取り決め作りであり、ここでの決定事項に基づいてタイ国内での第一回目の公募を行うこととなった。

■ 科学技術博物館サイエンススクエア開所記念展示 ■

平成 22 年年 9 月 14 日（火）、NSM Science Square にて、開所記念式典が開催され、当オフィスより副センター長及び現地職員が視察した。

これは NSM が行っている Learning Center の活性化の一環であり、Chamchuri Square Building の 4 階に新たに開設されたものである。Learning Center の目的は若い世代の科学への興味関心を高めることであり、家族連れ等が自然科学に触れ合う機会を提供することである。

今回は開所記念として、また 2010 年が国連生物多様性年であることを記念して、上海科学技術博物館より本年の中国暦でいう干支であるトラに関する特別展示を行った。今回の特別展示に向けて、NSM では上海科学技術博物館と 2010 年 5 月に協定を締結している。



左 3 番目から

Mr. Guan Mu 中国大使、Dr. Veerametheekul 科学技術大臣、
Dr. Pichai Sonchaeng 国立科学博物館長

■ ハノイ科学技術大学訪問 ■

平成 22 年 9 月 17 日、ベトナムの首都ハノイにあるハノイ科技大学（Hanoi University of Science and Technology）を当オフィス副センター長が訪れた。JSPS 外国人特別研究員として 2 年間、京都大学に滞在していた Dr. Do Van TRUONG 講師を訪ね、帰国後の様子を伺ったほか、Dr. TRUONG が事務局長を務める京都大学ベトナム同窓会について話を伺った。

JSPS 事業の経験者として、JSPS ベトナム同窓会の立ち上げについても関心を示しておられ、JSPS バンコクオフィスとしては、今後可能な範囲でサポートをしていきたいと考えている。



Dr. Truong、副センター長

■ 京都大学ベトナム同窓会の設立 ■

平成 22 年 9 月 16 日、ベトナムの首都ハノイにて、京都大学ベトナム同窓会設立式が開催され、当オフィスより副センター長が参加した。

当同窓会は、ベトナム在住の日本人とベトナム人の本学卒業生によるもので、当日は日本人 30 名、ベトナム人 50 名の計 80 名ほど参加する盛大な会となった。



設立会では、松本紘 総長、大西有三 理事・副学長、大西一男 ハノイ吉田会会長、Dr. Ta Thanh VAN ベトナム人同窓会会長から挨拶があり、それぞれにベトナムと日本に向けての抱負が語られた。

京都大学の海外同窓会で、日本人と現地人の両方の同窓会がある地域はタイに次いでベトナムが 2 番目となり、東南アジア地域における日本大学同窓会として、今後の活発な活動が期待される。

■ 京都大学ーベトナム国家大学ハノイ共同事務所の開所式 ■



松本総長、Dr. Mai Trong Nguan 総長

平成 22 年 9 月 17 日、ベトナムの首都ハノイにある、ベトナム国家大学ハノイ校にて、京都大学ーベトナム国家大学ハノイ共同事務所

(Vietnam National University, Hanoi – Kyoto University Collaboration Office (VKCO)) の開所式が行われ、当オフィスより副センター長が参加した。

VKCO は、文部科学省が実施する国際化拠点整備事業（グローバル 30）により指定された 8

つの「海外大学共同利用事務所」の 1 つで、日本の大学およびベトナムの教育事情等に関する情報の収集・発信と日本の大学への留学を促進することを目的に開設されたものである。

開所式には、日本・ベトナム両国から政府関係者及び大学関係者約 100 名が出席し、Dr. Mai Trong Nguan ベトナム国家大学ハノイ総長および松本紘 京都大学総長の挨拶に続いて、両総長による同事務所の開所・運営にかかる協定書の調印式が行われた。

相星幸一 在ベトナム日本国大使館公使、磯田文雄 文部科学省高等教育局長、Nghiem Vu Khai ベトナム国会科学技術環境委員会副委員長・国会書記局委員から祝辞が述べられたほか、両国メンバーからなる VKCO の運営委員会の紹介があり、VKCO 所長には京都大学国際交流センターの 新江利彦 特定助教が就任し、現地スタッフとともに運営を行うこととなる。



新江 VKCO 所長、副センター長

■ VAST を表敬訪問 ■

2010 年 9 月 17 日、ベトナムの首都ハノイにて、VAST (Vietnam Academy of Science and Technology: ベトナム科学技術アカデミー) を表敬訪問した。今回はセンター長が急用のため日本へ帰国し、副センター長一人での訪問となった。

VAST は JSPS のベトナムにおけるカウンターパートであり、また 30 以上の様々な分野の研究施設を抱えるベトナム最大の研究機関でもある。

今回、VAST 側からは Dr. Ninh Khac BAN 国際部長 (Director, International Cooperation Department (ICD)) 及び Mr. Nguyen Van THUONG 上級職員 (Senior Expert, ICD, in charge of cooperation between VAST and Japan) に対応いただき、現在 JSPS-VAST 間で行われているプログラムの改善案や、今後のベトナム JSPS 同窓会設立への関心などについて話し合われた。

特に、JSPS バンコクオフィスを通じた JSPS-VAST のより顔の見える関係作りについて、今後の日本-ベトナム間の協力発展に資するよう、賛同が得られた。



副センター長、Dr. Ban

■ ホームページのリニューアルが完了 ■

2010 年 9 月 22 日、当センターのホームページのリニューアルが完了。日本語とタイ語の 2 言語により、JSPS 本体及び当センターの照会を行うほか、新たに直近の活動情報の報告等を行っていく予定。URL は引き続き <http://jsps-th.org/>。



■ NSTDA の新政策方針 ■

7 月はじめに NSTDA (National Science and Technology Development Agency) 長官に就任した Dr. Thaweesak Koanantakool が、NSTDA が発表予定の研究開発マスタープランについて発表した。政府機関と民間セクターの要請をマッチングさせることにより、開発投資の重複削減と効率的技術開発を目指すものである。農産業への科学技術の応用により実体経済の持続可能性と競争力の向上を図るという、科学技術大臣の方針に従うものであるとしている。

食料・農業、エネルギー・環境、公衆衛生、製造業、地域社会の 5 つからなる社会と産業のクラスターに重点を置き、NECTEC、MTEC、BIOTEC、NANOTEC という 4 つの研究機関を通じて調整を行うこととなる。

また、マスタープランのもう一つの目的として、研究開発に関する共通の指針を政府系の研究開発組織に提供することとしている。つまり、TRF、NRCT、ARDA、SHI、NHSO、THPF、OHEC であり、すでにここまでの 8 ヶ月間は 2 ヶ月ごとに会合を持ち、最初の試みとして、これら組織の持つ研究開発データ共通のデータベースを開発することで合意した。

なお、NSTDA は 2009 年単年で、200 件の特許申請をしたほか、10 億バーツ相当の民間機関との共同研究プロジェクトを実施。

年間 40 億バーツの科学技術予算のうち 30 億バーツが政府予算、10 億バーツが民間支出となっている。

NECTEC (National Electronics and Computer Technology Center)

MTEC (National Metal and Materials Technology Center)

BIOTEC (National Center for Genetic Engineering and Biotechnology)

NANOTEC (National Nanotechnology Center)

TRF (Thailand Research Fund)

NRCT (National Research Council of Thailand)

ARDA (Agricultural Research Development Agency)

SHI (Society and Health Institute)

NHSO (National Health Security Office)

THPF (Thai Health Promotion Foundation)

OHEC (Office of the Higher Education Commission)

(Nation・2010 年 7 月 20 日)

■ 大学評議会の新たな動き ■

活動実績が乏しい、または学長や経営陣の評価に前向きでないことにより機能不全に陥っている大学評議会の再活性化に向けて新たな組織を立ち上げようとする動きが出ている。

スラナリー技術大学の評議会会長である Dr. Vichit Srisaarn 教授及びタマサート大学評議会の名誉会員である Anek Laothamatas 准教授によると、学長を評価する評議会メンバーが当の学長に選ばれており、評議会に

してみれば評価や提言がしづらい状況におかれている。また、そもそも欠席が多く、出席しても有効な提言はなされないという。

そういった状況を打破しようと、2010年7月19日に開かれた会合において、大学評議会メンバーによる組織 Association of Governing Boards of Higher Education Institutes of Thailand が組織されることとなり、グッドプラクティス共有等を目指すこととなった。

(The Nation・2010年7月22日)

■ 地域社会における大学の新たな貢献 ■

タイ改革議会議長 Dr. Prawase Wasi が8月2日、各大学に各地域の発展に資するよう役割を与えていく方針を示した。

会合には150以上の州立・私立大学関係者が参加しており、博士は、大学が学術的側面のみにいる時代は終わり、実社会での役割を探す時であると発言。

アピシット首相はこの考えに同意を示しており、同会議での提言が教育大臣とさらに内閣への報告に盛り込まれることを表明した。

(The Nation・2010年8月3日)

■ 優秀研究者賞 ■

マヒドン大学医学部の2人の教授が、今年の優秀研究者として指名を受けた。微生物学研究科ウイルス学教授の Prof. Dr. Prasert

Auewarakul と医療プロテミクスユニット長である Dr. Visith Thongboonkerd。

また、これとはほかに6人の若手研究者が科学技術振興財団 (Foundation for the Promotion of Science and Technology under the patronage of His Majesty) より表彰を受けた。その6人は、チュラロンコン大学 Dr. Kruawun Jankaew、チェンマイ大学 Dr. Chanakan Prom-u-thai、キングモンクット工科大学ラックラバン校 Dr. Banjong Boonchom、国立遺伝工学・バイオテクノロジー研究センター Dr. Verawat Champreda、プリンスオブソンクラ大学 Dr. Sa-Ad Riyajan、国立ナノテクノロジー研究センター Dr. Uracha Ruktanonchai。

優秀研究者には盾と賞金40万バーツが、若手研究者にはトロフィーと10万バーツが知りトーン王女より授与された。

(The Nation・2010年8月5日)

■ 肝細胞治療にゴーサイン ■

医療評議会会長 Dr. Somsak Lohlekha によると、医療協議会は、シリラート病院での、子ども及び成人の失明を防ぐ目的の網膜損傷治療のための幹細胞研究プロジェクト2件を承認した。

今回の決定の元になっている評議会の新たなルールは、肝細胞制御に関するものとしてはタイでは初めてのもので、民間医療機関での偽装または有害な幹細胞治療への国民的批判を受けて成立した。5月に発効して以来、

15の研究申請が出ているが、今回の2件が初の認可となった。

(The Nation・2010年8月17日)

■ 研究機関の協働路線 ■

2012年から2016年までの5年間、研究成果の改善とそれを国家ニーズに耐えうるものとするよう、主要な研究支援機関は連携協働への模索を行っている。

NRCT 事務局長 Dr. Soottiporn Chittmittrapap 教授によると、政府の交代や政策の変更により、主要研究援助機関の連携協働は実現せずにきたが、その模索は行われていたという。

今回の動きは、NRCTにより起草された第8期国家研究政策と戦略によるものであり、研究プロジェクトと研究グラントに関するデータベースの共用によって、より効率的な資金援助体制を作ることを視野に入れている。

なお、主要研究援助機関とは、NRCT、NSTDA、TRF、HSRI、ARDAの5つである。このうちNRCTとNSTDAのデータベースはすでに連結されている。データベース共有により、効果的な研究成果の利用を証明できれば、研究予算を守ることも困難ではなくなるだろうと自信を示している。

国家研究政策と戦略に盛り込まれた新たなコンセプトは研究機関・大学間での研究の乖離または重複という弱点の克服であり、地域社会と民間企業への還元についても考えが含まれている。

さらに、同政策と戦略は輸入の削減と地域社会での知識の共有という第11期国家経済社会開発計画にも準拠している。

Dr. Soottiporn 教授によると、民間部門が今年の研究開発に80億バーツを投資した一方、10月からの新年度の国による研究予算は、今年度の100億バーツからダウンし、99億バーツとなった。

しかし、彼はカギとなる主要機関や研究機関の間での協働によって、予算はより効果的に使用できるものと考えている。

一方、民間部門では研究開発投資に良い兆しがある。Dr. Soottiporn 教授によれば、大企業から来年は研究開発にもっと投資する傾向があると伝えてきており、2011年には民間投資は90億バーツになると見積もっている。

NRCT (National Research Council of Thailand)

NSTDA (National Science and Technology Development Agency)

TRF (Thailand Research Fund)

HSRI (Health Systems Research Institute)

ARDA (Agricultural Research Development Agency)

(The Nation・2010年8月20日)

■ 研究者養成の推進 ■

8月26日、アピシット首相はNRCT主催のセミナーにて、創造的経済に向けて、新しい分野の研究への援助とより多くの研究者の

養成について発表を行った。現在、タイには約 21,000 人の研究者がおり、その多くは大学に勤務している。

(Bangkok Post ・ 2010 年 8 月 27 日)

■ 教育分野の論文の低い効用 ■

1988 年から 2009 年までの 10 年間で 76,000 人以上の研究者によって 10 万本以上の教育論文が発表されながら、その多くが実用化されていないことが明らかになった。NRCT 教育部門の Dr. Boonreang Kajornsinn によれば、多くの大学では今も研究理論の教育に終始しており、大学院生は実践可能な研究を行うことができないという。NRCT 教育部門では 2010 年から 2019 年を対象とした教育研究のための初めてのロードマップを用意しており、研究と実践の品質向上のためのガイドラインの設定を目指している。

ロードマップが改善を目指しているのは以下 5 つの分野である。研究管理、研究課題、教育研究の生産、研究者間のネットワークを利用したキャパシティビルディング、研究の普及と実用化。

(The Nation ・ 2010 年 8 月 31 日)

■ 学生連盟新メンバー ■

広く“赤より”と認知を受けている学生連盟が、タマサート大学の 1976 年 10 月 6 日記念塔前で新メンバーの発表を行った。8 月 21 日

に任命された 11 人体制の新理事会は事務局長を置かずにコーディネーターとスポークスマンを設けることに決めた。これは一人の人間に重責を負わせないため、とのことである。前回、事務局長を置かなかったのは 2007 年にさかのぼり、それは 2006 年 9 月 19 日の政治的な決裂によって多くの学生連盟メンバーが脱退したクーデター翌年のことである。

学生連盟は今年、元首相の Anand Panyarachun と社会評論家で医師でもある Dr. Prawase Wasi によるタイ改革議会についても、4 日から 5 月の 91 人に上る死者を出したことに責任がある以上、政府には仲介役はできないとして、ボイコットしている。学生連盟の新スポークスマンであり、チュラロンコン大学ジャーナリズム学部 4 年生の Soonyata Mianlamai は、改革議会はすべての分野を代表しているものではない茶番であると批判している。

(The Nation ・ 2010 年 9 月 1 日)

■ アジア発航空業界人材開発 ■

シンガポールの南洋工科大学 (NTU) とジュネーブに本部を置く国際航空運送協会 (IATA) が、グローバルな航空業界のための人的資本の向上に関する覚書に署名した。

アジアの大学とのこのような覚書の締結は、全世界 230 の航空会社の代表として全フライトのうち 93 パーセントを占める IATA にとって初めてのことである。IATA の事務局長であり CEO である Giovanni Bisignani は、ア

ジアは単独で最大の市場であり、成長を続けている。中国とインドという航空業界の巨人の中間点という位置にあつて、IATA と NTU が地域における航空業界の更なる成長にむけた人材育成の中心的役割を果たす、と述べた。

この覚書のもと、IATA と NTU は航空業界に特化したジョイント MBA プログラムの可能性を探るとともに、NTU 教員が IATA で講義を行い、IATA の上級教員が NTU で教鞭をとることとなる。

(The Nation ・ 2010 年 9 月 21 日)

7 月

- 1 日(木) 竹内 渉(東京大学生産技術研究所・准教授) センター長着任
- 7 日(水) タイ科学技術週間(Science Week 2010) 準備会合出席 於 MOST
- 9 日(金) タイ科学技術エキスポ(Research Expo 2010) 事前打合せ出席 於 NRCT
- 26 日(月) 田辺寛明(京都大学・事務職員) 副センター長着任
- 28 日(水) 横浜国立大学 近藤正幸 教授来訪

8 月

- 7 日(土) タイ科学技術週間(Science Week 2010) 出展 ～22 日(土) まで
- 9 日(日) タイ科学技術週間(Science Week 2010) 開会式参加
- 23 日(月) 日本森林技術協会/System Highdent 三塚直樹氏、日本森林協会
田中潔 顧問、同 野仲一成 専門技師来訪・打合せ
- 24 日(火) JSPS タイ国同窓会会長 Dr. Busaba Yongsmith 教授来訪・打合せ
- 26 日(木) タイ科学技術エキスポ(Research Expo 2010) 開会式参加
同 出展 ～30 日(月) まで
- 27 日(金) 国際航業株式会社 原口正道技師、山崎秀人 氏来訪・打合せ
AIT(Asia Institute of Technology) 長井正彦 氏来訪
- 28 日(土) JSPS タイ国同窓会セミナー参加
- 29 日(日) JSPS-NRCT セミナー開催

9 月

- 4 日(土) 大阪大学大阪外国語大学同窓会参加
- 6 日(月) GISTDA 訪問・打合せ
- 7 日(火) 小町恭士 在タイ日本国大使 特別講義 出席 於タマサート大学東アジア研
究所
JST シンガポール事務所 矢野雅仁 シニア・プロジェクト・マネージャー来訪・打
合せ
- 9 日(木) 第一回 JSPS タイ国同窓会理事会開催
- 10 日(金) 東京大学生産技術研究所/AIT 川崎昭如 特任准教授来訪・打合せ
- 13 日(月) 在バン格拉デシュ日本国大使館 大村 浩 一等書記官来訪・打合せ
- 14 日(火) NSM サイエンススクエア開所記念展示 参加
- 15 日(水) ベトナム出張 ～18 日(土) まで
- 16 日(木) ハノイ工科大学 Dr. Do Van Truong 講師 訪問
京都大学ベトナム同窓会設立式 出席
- 17 日(金) ベトナム科学アカデミー表敬訪問
- 20 日(月) 大阪大学 宮本和久 名誉教授、鍋師裕美 特任助教来訪
- 21 日(火) NEDO バンコク事務所 江口弘一 所長来訪・打合せ
JASSO タイ事務所 萩原隆史 所長訪問・打合せ

Map of JSPS Bangkok office

Please show this document to a taxi driver

In English:

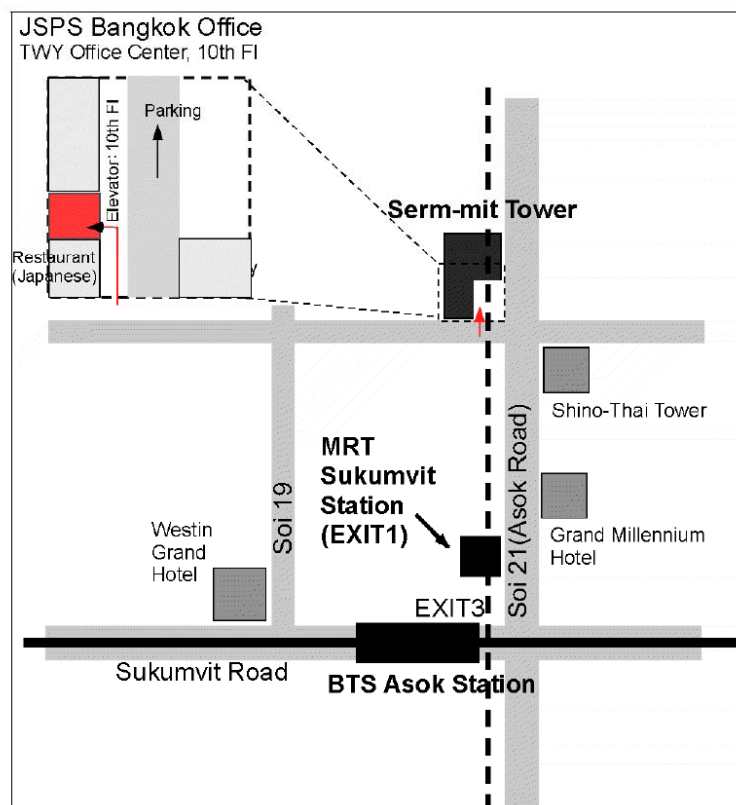
Please go to JSPS Bangkok office

Serm-Mit Tower at Sukhumvit Soi 21 (Asok)

In Thai:

เดินทางมาที่ เจเอสพีเอส สำนักงานกรุงเทพ

มาส่งที่อาคารเซริมมิตร ซอยสุขุมวิท 21 (อโศก)



Bangkok office

Japan Society for the Promotion of Science (JSPS)

113 TWY office center, 10F, Serm-mit Tower

159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110 Thailand

Tel: 02-661-6453

日本学術振興会バンコク研究連絡センター / JSPS Bangkok Office

113 TWY Office Center、10th Fl. Serm-mit Tower

159 Sukumvit Soi 21、Bangkok 10110

Tel: +66-2-661-6453 Fax: +66-2-661-6454